

助成事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人地域ケアネットワーク ゆいまある
 代表者・役職名 氏名 理事長 八幡茂子



▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

使ってみよう！試してみよう！認知症サポート器具体験会

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

1999年4月3日、「この街で安心して暮らし続けるために、市民による市民のための在宅支援を」と有志の会員によって設立。ケアマネジメント、ホームヘルプ、小規模多機能、デイサービス、配食や移送サービスを行っている。2016年6月、デイサービスと厨房、カフェ、交流スペースからなる複合施設「ゆいまある南沢」を開設し、多世代多様な人々が集える「地域の居場所」づくりをめざしている。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

当団体は、昨年6月に当助成金を得て映画会「妻の病」を開催し、認知症への関心を高めつとともに、運営のための地域人材の発掘を行い、9月開設以降毎月1回開催してあり方を探ってきた。参加者も徐々に増加しているが、より多くの方に関心をもってもらうために、専門的な知識、生活に役立つ知識を学ぶ場を設け、カフェのステップアップを図る。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

昨年9月開設の当団体の認知症カフェ(ゆいまあるカフェ)は着実な広がりを見せている。より実践的な活動により、さらに多くの人々に参加してもらうため、認知症になっても自立した暮らしをサポートする用具を整備し、体験する機会を設けた。北欧の先進的なケア用具と地域でよく使われているケア用具の双方を展示、講師には用具の使用方法和あわせて在宅生活を支える北欧諸国の政策や市民の意識等についてお話いただいた。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

参加人数 30名

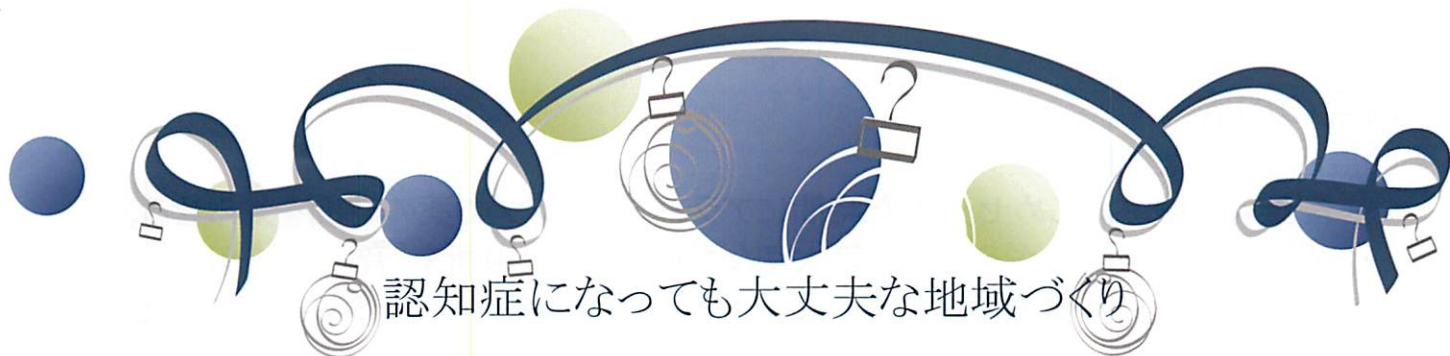
地域住民等 20名(認知症当事者3名含む) ケアマネージャー 6名 市職員 2名 講師 2名
 これまで認知症カフェに来たことのない方々が参加し、器具の使用体験という具体的な行動により認知症ケアと在宅での自立した暮らし方について考える場となった。体験会終了後は施設内の厨房で調理の弁当を食べながら交流の機会を持ち、今後の取り組みなどについても共有することができた。
 また休日にもかかわらず市内のケアマネージャーや市の高齢福祉担当者が個人的に参加し、当カフェの活動がケアのキーパーソンに周知されるようになったことの効果は大きい。認知症カフェの存在やそこの様子などを当事者やご家族に伝えて、足を運んでもらうための強い力となると思われる。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

購入した器具は今後認知症カフェに展示し、参加者が自由に体験できるようにし、貸し出しにも対応する。また当団体のケアマネジメント、デイ、ヘルプなどの介護サービスでの使用、家族会への紹介など様々な活用を行う。今後、さらに認知症ケアに関する最新の書籍やDVD等も順次購入し、当認知症カフェの目指す「気軽に訪れて、安心役割、情報が見つかるカフェ」づくりを着実に進めたい。

7. 参考資料

開催チラシ、写真	参考資料あり・特になし
----------	-------------



認知症になっても大丈夫な地域づくり

ゆいまあるカフェ

気軽に訪れて、「安心」、「楽しみ」、「役割」、「情報」が見つかるカフェ

7月1日(土) 10:00~12:00

使ってみよう！試してみよう！ 認知症サポート器具体験会

10回目を迎えたゆいまあるカフェ、今回は認知症になっても自立して生活していくうえで役に立つ認知症サポート器具の体験会です。

今すでに地域で活用されている様々な器具のほか、北欧で開発・輸入の器具もあわせて展示します。

使用法の説明も受けながら、実際の自分の生活での使い方を思い浮かべながら体験してみましよう！

→詳細は裏面へ

問合せ：NPO 地域ケアネットワークゆいまある
交流ひろば:042-477-0211 担当:工藤・中村・八幡

この事業は2017年度真如苑助成事業により行うものです。

体験会の内容

○展示する機器例

- ・ 配錠箱（あらかじめセットした時間にアラームやランプで薬の時間を知らせる。）
- ・ メモリープラス（カギや財布、等大切なものを置いた場所を「音」で知らせる
- ・ トーキングアルバム(20枚の写真にそれぞれコメントやメッセージが録音できる)
- ・ お薬カレンダー
- ・ ブレーキ作動車椅子
- ・ GPS など

○インストラクターおふたりによる器具の使用説明と体験

(株) タムラ企画 中里彩香氏

タムラ企画は高齢者についての各種調査、国内や北欧諸国への研修セミナーの企画、北欧からの認知症補助具の輸入販売等を行っています。

各器具の使用法や効果等を説明していただきながら、あわせてそれらの器具が使用されている北欧での生活事情や人々の意識等についてもお話しいただきます。

(株)ホームケアセンターイワサキ 吉野智博氏

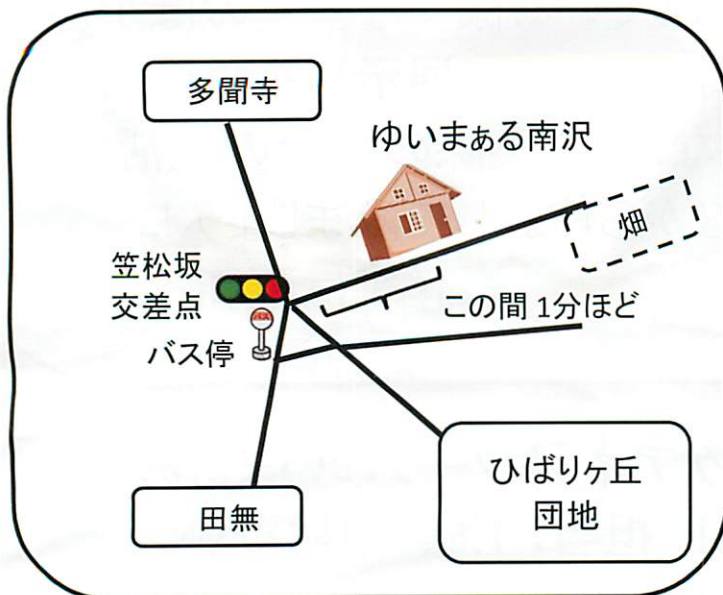
ホームケアセンターイワサキは 清瀬市に介護ショップをオープンして29年。

在宅生活の問題を環境整備と福祉用具のご提案で解決！ 皆様と一緒に

「出来る、出来た。」の実現に取り組んでいます。

今回は、私たちの地域で認知症の方やご家族が良く使用されている機器を中心に、紹介していただきます。

☆参加費 100 円(資料・お茶代) ☆昼のお弁当は 500 円別途(3 日前までに予約)



最寄りバス停

○西武イオンバスシャトルバス

「笠松坂」下車徒歩2分

○西武バスひばりヶ丘駅発

田無または武蔵境行き

「ひばりが丘団地北口」または「東京道」下車徒歩7分